

各 位

会社名 ニスカ株式会社
 代表者名 代表取締役社長 中里 賢次
 (JASDAQ・コード番号 6415)
 問合せ先 理事管理部長 宇津 秀昭
 (TEL. 0556 - (22) - 6600)

当社の親会社 キヤノンファインテック株式会社
 代表者名 代表取締役社長 相馬 郁夫
 (コード番号 6421 東証第一部)

創立 45 周年記念配当および

平成 17 年 12 月期 業績予想の修正に関するお知らせ

当社は平成 17 年 6 月 7 日開催の取締役会において、平成 17 年 12 月期の 1 株当たり年間配当金の予想を下記の通り修正する決議をいたしましたので、お知らせいたします。

また、最近の業績動向等を踏まえまして、平成 17 年 1 月 26 日付当社「平成 16 年 12 月期決算短信(連結)」および同日付当社「平成 16 年 12 月期個別財務諸表の概要」にて発表いたしました平成 17 年 12 月期の業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 配当予想の修正

平成 17 年 12 月期 (平成 17 年 1 月 1 日 ~ 平成 17 年 12 月 31 日)

	中間配当金	期末配当金	年間配当金
前回の予想 (平成 17 年 1 月 26 日)	普通配当 10 円 00 銭	普通配当 10 円 00 銭	普通配当 20 円 00 銭
今回修正	普通配当 10 円 00 銭 記念配当 5 円 00 銭	普通配当 10 円 00 銭 記念配当 5 円 00 銭	普通配当 20 円 00 銭 記念配当 10 円 00 銭

【参考】平成 16 年 12 月期実績

	中間配当金	期末配当金	年間配当金
平成 16 年 12 月期実績	普通配当 9 円 00 銭	普通配当 11 円 00 銭	普通配当 20 円 00 銭

【理由】

当社は本年をもって創立 45 周年を迎えることが出来ましたうえに、平成 16 年 12 月期には自己資本比率が連結・単独ともに 50% 以上を達成し、当期には借入金もすべて返済できる見通しとなるなど、財務体質の強化が進んで参りました。これもひとえに株主の皆様をはじめ、関係者各位のご支援の賜物と心から感謝いたしております。

つきましては、株主の皆様への感謝の意を表すため、記念配当を中間配当において 5 円実施し、平成 18 年 3 月開催予定の第 51 期定時株主総会において 5 円の実施をご提案申し上げることいたしました。

2. 平成 17 年 12 月期業績予想の修正等

(1) 中間期 (平成 17 年 1 月 1 日 ~ 平成 17 年 6 月 30 日)

a. 連結中間期

(単位 : 百万円)

	売 上 高	経 常 利 益	中間純利益
前 回 予 想 (A)	22,000	1,900	1,200
今 回 修 正 (B)	21,300	1,600	950
増 減 額 (B - A)	700	300	250
増 減 率	3.2%	15.8%	20.8%

b. 単独中間期

(単位 : 百万円)

	売 上 高	経 常 利 益	中間純利益
前 回 予 想 (A)	20,200	1,800	1,100
今 回 修 正 (B)	19,700	1,600	950
増 減 額 (B - A)	500	200	150
増 減 率	2.5%	11.1%	13.6%

c. 修正理由

個別業績予想の修正

当社の主力事業であるペーパーハンドリング事業およびオプト事業で、価格競争が当初の予想より激化していることから、売上高が前回予想額を下回る見通しです。また、損益面では売上高の減少に加え、機種構成の変動や原材料価格の高騰による原価率の上昇などから、前回予想額から減少する見込みであります。

連結業績予想の修正

連結業績修正につきましては、個別業績の修正要因に加え、売上高の減少により海外子会社の収益が予想を下回る見込みであります。

(2) 通 期 (平成 17 年 1 月 1 日 ~ 平成 17 年 12 月 31 日)

a. 連結通期

(単位 : 百万円)

	売 上 高	経 常 利 益	当期純利益
前 回 予 想 (A)	46,000	4,200	2,500
今 回 修 正 (B)	44,000	3,600	2,150
増 減 額 (B - A)	2,000	600	350
増 減 率	4.3%	14.3%	14.0%

b. 単独通期

(単位 : 百万円)

	売 上 高	経 常 利 益	当期純利益
前 回 予 想 (A)	42,600	3,800	2,300
今 回 修 正 (B)	40,600	3,400	2,050
増 減 額 (B - A)	2,000	400	250
増 減 率	4.7%	10.5%	10.9%

c. 修正理由

個別業績予想の修正

下期にも価格競争が一段と激しくなることが予想されるため、売上高はペーパーハンドリング事業およびスキャナ事業で減少する見通しです。損益面では、下期には原価低減施策の効果が表われることにより、上期に比べて原価を抑えられる見込みですが、売上高の減少をカバーするまでには至らず前回予想額を下回る見込みです。

連結業績予想の修正

連結業績修正につきましては、主として個別業績の修正要因によるものです。

(3) ご参考：前期の実績（平成16年1月1日～平成16年12月31日）

a. 連結

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
中間期(1/1～6/30)	21,623	2,108	1,423
通期(1/1～12/31)	44,929	4,146	2,758

b. 単独

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
中間期(1/1～6/30)	19,970	2,002	1,374
通期(1/1～12/31)	41,328	3,671	2,453

以上